

GAPの活用

本学では、学生の学修意欲向上と教員による適切な修学指導支援のため、GPA(Grade Point Average)制度を設けています。GPAの値が著しく悪化した場合には、教員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。

GPA制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学修を行ってください。

GPA とは	GPAとはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・Dといった成績評価をGP(Grade Point)と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの修得単位数を乗じたものを履修登録単位数で除して算出される1単位あたりの平均値です。仮に、単位を修得することができた科目の成績が良くても、一方で不合格となった科目の数も多ければ GPAは高くありません。したがって、GPAを高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学修し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。														
GP	<p>GPは、成績評価に基づき下表の通りとします。</p> <table border="1" data-bbox="373 750 1209 824"> <tr> <td>成績評価</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>R</td> </tr> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>対象外</td> </tr> </table>	成績評価	S	A	B	C	D	R	GP	4	3	2	1	0	対象外
成績評価	S	A	B	C	D	R									
GP	4	3	2	1	0	対象外									
GPA計算式	<p>GPAは次の式により算出します。</p> $GPA = \frac{(4 \times S \text{の取得単位数}) + (3 \times A \text{の取得単位数}) + (2 \times B \text{の取得単位数}) + (1 \times C \text{の取得単位数})}{\text{加算対象の履修登録総単位数}}$ <p>(小数点第4位以下四捨五入)</p> <p>なお、GPAの算出には、すべての科目が対象となります。 また、GPAは「年度GPA」(年度ごとのGPA)と「累積GPA」(入学以後の通算GPA)の2つにわけられます。</p>														
GPA制度のねらい	<p>GPAは「4」に近いほど学修状況が良好であることを示します。 一方で、GPAが「0」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていなかったりなど、学修状況になんらかの問題が生じている可能性があります。そういった問題を適宜発見し、担任教員の指導も交えながら、以後の学修改善に繋げるためにGPA制度は有効であるといえます。</p>														
修学指導・退学勧告	<p>本学では、GPAが著しく低くなった学生に対し、下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)1年次終了時において累積GPAが0.500未満の者には、担任教員が面談のうえ、次年度以降に向けた適切な修学指導を行います。 (2)2年次以降の各年度終了時において累積GPAが0.500未満の者には、担任教員が面談および修学指導を行います。 (3)前項の面談および修学指導を行った担任教員は、その結果を学科長に報告します。 (4)前項の報告を受けた学科長は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告します。 (5)前項の報告を受けた学部長は、学科長と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告します。 (6)前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行います。 <p>ただし、GPA制度はあくまでも学生の学修意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。 上記に定める担任教員の面談・修学指導により、以後の学修改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。 一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学修改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますのでご注意ください。</p>														